



～婦人科からのお知らせ～

昨年9月より当院婦人科常勤医（診療部長）として赴任いたしております。
この紙面を借りまして子宮がんに関する話題を提供させていただきます。



小林 理章

子宮頸がんは20～30代で急増しています。

- 子宮頸がんは初期の段階ではほとんど自覚症状がないため、しばしば発見が遅れます。
- 子宮頸がんは20～30代で急増しています。
- 日本人では年間約15,000人[※]の女性が発症していると報告されています¹⁾。

*上段内がんを含む



国立がんセンターがん対策情報センター、人口動態統計(厚生労働省大臣官庁統計情報部)より作成
1) 2008年人口動態統計(厚生労働省大臣官庁統計情報部)より算出

1) 欧米の子宮がん検診受診率は概ね70～80%なのに対し、日本の受診率は20%で、近年、子宮頸がんが増加している20～30歳代にいたっては、受診率が5%～10%にも満たない状況です。子宮頸がん検診にはパピニコロウ染色という強力な検診ツールがあり、東大阪市検診制度もあり、検査料も安く、簡易で、痛みもほとんどなく、非常に感度も特異性も良い、他のがん検診にはない特長があります。子宮がんがお年寄りの病気だというのは40～50年前の話です。この40年の間に20～30歳代だけが増加しているのです。せつかく、前がん病変が存在し早期発見・早期治療ができるがんなのですから、20歳代以上の女性は、1～2年に一度は必ず子宮がん検診を受けてほしいと思います。

2) 2008年度ノーベル生理学医学賞を受賞したHauzen博士らの研究で世界的に注目されることとなったヒトパピローマウイルス：HPVが、子宮頸がん発症に大きく関わっていることが解明されました。昨年来、新型インフルエンザワクチンが話題になりましたが、子宮頸がん発症の主要な原因である、発がん性ヒトパピローマウイルス：HPVの16型と18型の感染を予防するワクチンも認可・接種可能となりました。

3) 婦人科手術も再開いたしております。子宮筋腫、卵巣嚢腫などの良性疾患、早期の子宮がんなど悪性疾患、子宮脱など腔式手術も実施します。開腹手術時には傷が少しでも目立たないように皮下縫合で、抜糸の必要のない手術を行っています。総合病院の強みとして、外科・泌尿器科・麻酔科・内科の協力のもと安全安心な手術を心がけております。腹腔鏡下手術もできるよう医師の確保、準備をしております。

～新任医師のご紹介～

おかざき よしひさ
眼科 岡崎 能久 医師

診察日：毎週水曜日

診察時間：午前9時～午前11時30分

～予約センターのご案内～

地域連携課予約センター 検査・受診予約受付について

当予約センターでは、紹介患者さんの検査・受診予約を承っています。

電話で予約頂き、その後直ちに予約票をFAXにて送付させていただきます。

予 約 セ ン タ ー

電話 (代表) 072 - 988 - 1409

FAX (直通) 072 - 982 - 5425

社団の理念

最高の医療を提供し、地域社会の健康と健やかな人生に貢献します。

若草第一病院の目標と基本方針

<目標>

頼りにされる病院

<基本方針>

- ・笑顔で接する
- ・他人に優しく、自分に厳しく
- ・相手の気持ちになって行動する